

**令和3年度**

**普及指導活動外部評価実施報告書**

**岩手県農林水産部農業普及技術課**

## 目 次

	頁
第 1 実施内容	2
第 2 評価結果	4
○ 農業普及技術課農業革新支援担当	5
○ 盛岡農業改良普及センター	9
○ 八幡平農業改良普及センター	12
○ 中部農業改良普及センター	14
○ 奥州農業改良普及センター	17
○ 一関農業改良普及センター	19
○ 大船渡農業改良普及センター	22
○ 宮古農業改良普及センター	24
○ 久慈農業改良普及センター	26
○ 二戸農業改良普及センター	28
添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領	30

## 第1 実施内容（令和3年度岩手県普及指導活動外部評価検討会実施要領）

### 1 目的

「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」（以下「要領」という。）に基づき、農業革新支援担当及び農業改良普及センターは、一層効果的かつ効率的な普及指導活動等を展開するため、外部評価委員会の評価を受けることとしており、この実施要領をもって、令和3年度の外部評価検討会に係る運営方法等を定める。

### 2 実施主体

農業普及技術課

### 3 評価委員

「先進的な農業者」等、各区分から5名を選任した。

区分	所属等	氏名
先進的な農業者	岩手県農業農村指導士協会 会長	青沼 純一
農業関係団体	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	高橋 一樹
学識経験者	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	宮路 広武
マスコミ	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	下山 隆雄
流通関係者、消費者、 民間企業	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	石田 善孝

### 4 日程及び方法

#### (1) 日程

令和4年2月25日（金）10:00～16:30

#### (2) 方法

ウェブ会議システム（各評価委員とウェブ会議システムで接続し評価を受けた。）

### 5 対象課題

#### (1) 県重点プロジェクト及び関連の深い地域課題普及指導計画

課題		公所
ア 水田転換畑等を活用した土地利用型野菜トップモデル産地の育成	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
(ア) 野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	地域課題計画	盛岡
(イ) 園芸産地の生産構造の強化 ①野菜産地の生産構造の強化	地域課題計画	中部
イ 県北地域の野菜大規模経営体の収益性向上支援	県重点プロジェクト	農業革新支援担当
(ア) 園芸の産地力向上（キャベツ）	地域課題計画	八幡平
(イ) 野菜生産組織の育成及び生産性向上	地域課題計画	二戸

(2) 普及センターの主要な地域課題普及指導計画

課題	公所
ア 野菜産地の維持拡大	大船渡
イ 地域農業を担う経営体の育成	久慈
ウ 再生農地地域の経営安定化支援	宮古
エ 消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援（畜産）	一関
オ 肉用牛経営体の生産性向上と規模拡大の推進	奥州

6 評価基準（視点）

項目	評価基準（視点）
課題背景 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状把握がしっかり行われているか。</li> <li>・支援対象をしっかりと捉えているか。</li> <li>・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。</li> <li>・根拠を踏まえて課題設定しているか。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な目標となっているか。</li> <li>・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。</li> <li>・関係機関等との共有が図られているか。</li> </ul>
活動体制 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動方法と活動時期は適切か。</li> <li>・所内での役割分担と連携体制は明確か。</li> <li>・県重点プロジェクト（地域課題計画）との連携が図られているか。</li> <li>・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。</li> <li>・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。</li> </ul>
活動実績と成果 地域や対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績と成果が見出されているか。</li> <li>・実績と成果につながった要因を分析しているか。</li> <li>・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。</li> </ul>
残された課題 今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残された課題をしっかりと捉えているか。</li> <li>・今後の対応策をしっかりと設定しているか。</li> </ul>
参考評価（プレゼン テーション）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した資料は見やすく、発表は明瞭で分かりやすいか。</li> </ul>

【内部評価及び外部評価の結果】

- A：ねらい通りに進んでいる。
- B：概ねねらい通りに進み始めた。
- C：ねらい通りに進めないが、展開の糸口は見えている。
- D：全くねらい通りになっていない。糸口すらない。

## 第2 評価結果

全11課題の各評価委員からの評価の合計は、A評価10(18%)、B評価33(60%)、C評価12(22%)であり、一部の課題でねらい通りとなっていないと評価されたが、その他は、概ねねらいどおり普及指導活動が進んでいると評価された。

なお、普及センターで実施している内部評価の適切性について、内部評価と外部評価の差を取り確認した。以下(「外部評価 < 内部評価」)7.3%、同じ(「外部評価 = 内部評価」)89.1%。以上(「外部評価 > 内部評価」)3.6%であり、適切に内部評価が行われていると考えられる。

中課題	普及センター	内部評価	外部評価				外部評価と内部評価の差		
			A	B	C	D	以上	同じ	以下
水田転換畑等を活用した土地利用型野菜トップモデル産地の育成	農業普及技術課	C	0	0	5	0	-	100.0%	-
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	盛岡	B	0	4	1	0	-	80.0%	20.0%
園芸産地の生産構造の強化 ①野菜産地の生産構造の強化	中部	B	1	4	0	0	20.0%	80.0%	-
県北地域の野菜大規模経営体の収益性向上支援	農業普及技術課	A	4	1	0	0	-	80.0%	20.0%
園芸の産地力向上(キャベツ)	八幡平	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
野菜生産組織の育成及び生産性向上	二戸	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
野菜産地の維持拡大	大船渡	C	0	0	5	0	-	100.0%	-
地域農業を担う経営体の育成	久慈	B	0	4	1	0	-	80.0%	20.0%
再生農地地域の経営安定化支援	宮古	B	0	5	0	0	-	100.0%	-
消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援(畜産)	一関	B	1	4	0	0	20.0%	80.0%	-
肉用牛経営体の生産性向上と規模拡大の推進	奥州	A	4	1	0	0	-	80.0%	20.0%
		合計	10	33	12	0	3.6%	89.1%	7.3%

# 令和3年度 県重点プロジェクト 外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	①水田転換畑等を活用した土地利用型野菜トップモデル産地の育成	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
	②県北地域の野菜大規模経営体の収益性向上支援	高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>①水田転換畑等を活用した土地利用型野菜トップモデル産地の育成            ≪内部評価C≫</p>	<p>【青沼委員】≪評価C≫            ・米価下落の中で、水田転換畑について高収益な園芸作物導入により産地の育成と収益向上に取り組んでいる。</p>	<p>【青沼委員】            ・転作畑の選定がうまくいかず、排水の不具合が見うけられ思うように成果が上がらない点が見うけられる。条件の良いほ場選定を現場と協議して進める、またはもっと高度な排水対策をした上で進めた方が成果出るのはないかと思われる。</p> <p>(その他)            ・結果は少しずつ出てきているようなので、今後の展開に期待したいです。</p>	<p>・現場との事前協議を徹底し取り組みます。特に、今年度作成した「水田転換畑における野菜栽培の重要管理項目」でも「ほ場選定」を取り上げているので、現場での活用を推進し、より条件の良いほ場選定を進めます。</p> <p>・高度な排水対策についても積極的に情報収集を行い現場に紹介する機会を作る予定です。ただ、専用の機械が必要であったり、施工費が高額であったりするので、費用対効果についても検討します。</p>
	<p>【高橋委員】≪評価C≫            ・排水対策のチェックリスト(水田転換畑における野菜栽培の重要管理項目)を作成したことによって今後の指導方針を示し、生産者の反収向上に繋げた。</p>	<p>【高橋委員】            (その他)            ・野菜トップモデル産地創造事業の育成については、中長期的な指導が必要と考えられ、排水管理・土壌改善・労働力確保などの課題を徐々に指導・改善願いたい。</p>	<p>・ご指摘の課題については、R5からの次期重点プロジェクトの中課題で一元的に取り組む予定であり、一つづつ着実に解決できるよう、取り組みます。</p>
	<p>【宮路委員】≪評価C≫            ・チェックリストや排水対策早見表などの活用により、支援対象農家では、単収の他、出荷量も増加している。また、技術的対応だけでなく、適期作業の実施など作業工程管理の視点も取り入れて指導に取り組んでいる点は評価できる。</p>	<p>【宮路委員】            ・販売額目標は、3年目の達成目標75%に対して実績は0なので、C評価は致しかたないが、実績としては単収が向上した経営体も出てきているので、基本である排水対策などの指導を継続していただきたい。</p>	<p>・今後とも、排水対策等を中心に転換畑の技術対策について丁寧に取り組んでいきます。</p>
	<p>【下山委員】≪評価C≫            ・排水性のチェックリストは今後の活用が期待できる。結果に基づいて排水性の改善が容易な圃場の選定などができれば、水田での作付け転換推進に役立つのではないかと。</p>	<p>【下山委員】            ・単年度で収支をプラスにするのは困難としても、数年かければこうなるという試算をするなど進捗管理はできないか。モデル経営体のモチベーションになると考えます。</p> <p>・目標に達していない点で現在の結果は厳しくせざるを得ないが、今後期待します。</p>	<p>・モデル経営体に対する栽培技術支援のほか、中期経営計画の作成支援や実行支援など、経営体に寄り添いながら、経営全体の課題解決に向けて、各地域の農業改良普及センターと連携して取り組みます。</p>
	<p>【石田委員】≪評価C≫            ・革新担当は、水田転換畑での排水対策チェックリストの作成、普及センターは、チェックリストを活用しての指導等情報共有し経営体支援が総合的に行われている点が良いと思います。</p>	<p>【石田委員】            ・課題にも記されていますが、排水対策を効果的に実施するには、チェック項目にあると思いますが、土壌分析結果を経営体に周知し、透水性等の良い圃場選定を指導して行く事が必要と感じます。</p>	<p>・経営体との事前協議で、土壌分析結果の提示などを行い排水性等の改善指導を行います。特に、今年度作成した「水田転換畑における野菜栽培の重要管理項目」でも「ほ場選定」を取り上げており、現場での活用を推進し、より条件の良いほ場が選定されるよう指導します。</p>

②県北地域の野菜大規模経営体の収益性向上支援 《内部評価A》	<p>【青沼委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術・環境制御の取り入れ・応用により省力化・収量アップにつながる成果が見られる点が大変良かったです。</li> </ul>	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応する範囲が広いのでなかなか大変ですが、あれもこれも取り入れるよりも、もう少し的を絞って深掘した方が良い成果が上がる様に感じられました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度までは、スマート農業実証プロジェクトにより自動操舵等の各種技術の適応性評価を行い、一貫体系が構築されたところです。</li> <li>・令和3年度からは、炭酸ガス施用技術(果菜類)及びミスト加湿技術(ほうれんそう)の実証に取り組んでおり、これらに重点化した活動を進めます。</li> </ul>
	<p>【高橋委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸事業におけるGIS(おそらくZ-GIS)の活用は本会としても推進していきたい項目であり、参考になった。</li> </ul>	<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業(自動操舵・炭酸ガス施用機・ミスト噴霧等)の省力化は十分理解しているが、費用対効果を考慮した指導が必要</li> <li>・農福連携による労働力支援の重要な項目であるので、調査結果の説明もあれば良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各技術の実証に当たっては費用対効果を把握し、導入の参考となるよう提示します。なお、自動操舵については、スマート農業実証プロジェクトにおいて導入により生育の斉一化や作業精度の向上による収量向上の効果が認められており、稼働面積の拡大により導入メリットが見出される点に留意した指導等を行います。</li> <li>・発表時間の都合上、説明を割愛しましたが、令和2年度に農福連携の指導者向け参考資料を作成、提示済みです。</li> </ul>
	<p>【宮路委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業実証プロジェクトや現地研修会などの実施を通して、新技術の利用方法や効果を示すとともに、継続して評価を行い、目標を上回る導入実績をあげた点は評価できる。</li> </ul>	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術の営農現場での活用には、技術の具体的な利用方法について助言やサポートを求められるケースも想定されるので、より先導的に取り組まれることを期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術の具体的な利用方法の助言等ができるよう、新たな知見等の情報収集やスキルアップに努めるとともに、県重点プロジェクトの活動として各普及センターへの知識等の伝達を行っていきます。</li> </ul>
	<p>【下山委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動操舵技術が、地域農業で実用可能と検証できた。中規模農家に導入可能な炭酸ガス施用技術も注目される。こうした技術の普及が新規就農など農業の裾野を広げる展開に有効と考えます。</li> </ul>	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アシストスーツについて労働負担を低減する実用的な技術となるよう継続的に取り組んでほしい。</li> <li>・中小規模の農家に導入可能な技術の実証をさらに進めてほしいと考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アシストスーツについては、継続的に改良状況等の最新情報の収集を進めます。</li> <li>・中小規模の農家に導入可能な炭酸ガス施用技術の確立・普及に向け、令和4年度は新たに1経営体での技術実証を支援します。</li> </ul>
	<p>【石田委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業実証プロジェクトを実施しての経営体から、各種スマート農業技術の適応性評価追跡調査を行い、普及指導活動は使えるスマート技術普及活動になると思うので期待します。</li> <li>・実証プロジェクト以外の新技術への取り組みも大切なことと思いました。</li> </ul>	<p>【石田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業の取り組みとして、労働力不足の多少なりとも解消、作業時の精神的軽減、確実性等導入メリット、デメリットを記載されて良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術導入者への聴き取り調査により、技術導入のメリット、デメリットを把握しており、北いわてスマート農業サロンの活動等を通じ、農業者への情報提供を行います。</li> </ul>



### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対しての次年度反映内容
<p>【青沼委員】 米価が値下がりする中、水田から土地利用型の野菜の取り組みに重点が置かれています。そのような中で積極的に各施策へ取り組み積極的に普及活動している状況がよくわかりました。スマート農業・環境制御と組み合わせ積極的に導入に向けての施策等は農業者にとってもありがたい事です。今後ますますの展開を期待します。</p>	<p>【青沼委員】 ・気になったのが、水田転換畑での排水対策です。場所の設定時点からいくらかでも条件の良いほ場の選定や高度な排水対策をとらないとなかなかすぐに結果が出ません。もう少し吟味して場所選び方法など進める必要を感じました。 もう一つは、作物の選定です。従来からの作物の拡大は別ですが、新たに導入する場合は出荷量を確保する上でまとまった規模の産地になるような方策が必要ではないでしょうか。今後検討をお願いします。</p>	<p>・今年度作成した「水田転換畑における野菜栽培の重要管理項目」でも「ほ場選定」を取り上げているので、より条件の良いほ場を吟味して選定するなど現地での活用を誘導します。また、高度な排水対策技術についても、施工効果が発現する土壌条件や機械導入時の費用対効果等にかかる情報収集を積極的に行い、現場に紹介します。 ・ご指摘のとおり新たな作目の導入に当たっては、産地育成につながるよう「まとまった規模」とすることが重要です。このため、作目選定に当たっては、市町村やJA等の関係機関と協議を行い、施策との連動も意識して進めていきます。</p>
<p>【高橋委員】 ・水田からの園芸作物への転換に関して、排水対策の重要さと課題への取り組み。 ・きゅうりフケ果対策のFHフィルムの導入など、具体的な品質アップへの取り組みと今後の水平展開への期待。 ・スマート農業の導入による省力化への取り組み。</p>	<p>【高橋委員】 ・スマート農業の導入指導に関しては、その費用対効果を十分に検討すること。</p>	<p>・スマート農業技術の導入指導に当たっては、各技術の実証等を通じて費用対効果を把握し、導入の参考となるよう提示します。</p>
<p>【宮路委員】 ・革新支援担当と普及現場との連携のもと、プロジェクトが実施されている点は評価できる。  ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p>【宮路委員】 ・課題解決に向けた有効な対応策の共有など、地域間の情報の橋渡しを期待したい。 ・また、スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・各県重点プロジェクトの推進における普及センター等との検討や、各プロジェクト等に関連して実施する普及センターと連携した調査研究活動を通じて、農業革新支援担当が中心となって各課題解決に向けた対応策等について共有・橋渡しを行っていきます。 ・スマート農業技術は日進月歩であり、新たな知見等の情報収集やスキルアップに努めるとともに、各普及センターへの知識等の伝達を行っていきます。</p>
<p>【下山委員】 水田転換畑の活用は、水稲以外への作付け転換が課題となっている現状では、重要であると考えます。この点で重点プロジェクトとして取り組み、チェックシートの作成と活用など一定の成果が見られているところは評価します。</p>	<p>【下山委員】 水田転換畑で安定的に生産できるよう、実証を踏まえた効果的な排水対策、導入可能品目の選定と栽培のマニュアル作成などは早急に対応すべき課題と考えます。</p>	<p>・排水対策技術については、次年度も現地調査等情報収集をすすめ、「どのような条件ではどんな排水対策が有効か」等を示していきます。また、導入品目の選定と栽培のマニュアル作成については、次年度技術資料として取りまとめる予定です。</p>
<p>【石田委員】 ・水田転換畑の排水対策支援は、作付け作目に関係なく必須条件になると思います。排水対策のチェックリストの作成、排水早見表が排水性の診断ツールとして各普及センターと共有し、活用できたのは良かったと思います。</p>	<p>【石田委員】 ・水田転換畑の活用として、取り組む経営体の圃場の中で、排水性の良い(浸透性等)圃場選定を指導して行く事が必要に感じます。</p>	<p>・今年度作成した「水田転換畑における野菜栽培の重要管理項目」でも「ほ場選定」を取り上げているので、より条件の良いほ場を吟味して選定するなど現地での活用を誘導します。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展 《内部評価B》	<p>【青沼委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高収益作物を中心として、集落営農組織や大規模経営体など産地を担う生産者への多方面からの支援がなされていること。</li> </ul>	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産品目が果菜類中心に多い点が気になります。生産量がある程度まとまらないと価格面でも優位に展開が難しいので、都市近郊という面はあるが、JA等とも相談の上で品目を絞ってみても良かったのではないかと思います。(その他)</li> <li>実績は出てきているようですので、病虫害、技術面、人手など今後も支援強化頂きます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管内のJAいわて中央とJA新しいわての2つの農協に対応する中でやや品目が多くなっている。</li> <li>毎年、年度当初に、JA担当者と推進方針や役割分担等を協議し、方針や課題を共有して農家指導を行っており、今後も、JAや部会と連携して生産性の向上と産地強化に努めたい。</li> </ul>
	<p>【高橋委員】《評価C》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きゅうりフケ果対策のFHフィルムの導入やホモプシス根腐病対策など、省力的で効果がある方法の推進を評価。</li> </ul>	<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体の経営管理の課題解決について、もう少し生産者に寄り添った対応が必要。</li> <li>環境制御設備の導入については、費用対効果を十分考慮して検討をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営管理については、経営指導課と連携して農家の課題に対応した支援を行っている。今回は産地育成課が主担当である技術指導について主に説明した。</li> <li>環境制御技術については、導入コストに対して収益を上げるための収量レベルを目標として支援している。</li> <li>また、令和4年度は、パイプハウスで比較的低コストな環境制御の技術支援を行う予定。</li> </ul>
	<p>【宮路委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜作の生産性向上では、収量向上など技術的な対応の他、収穫後の調製作業の効率化を図る必要がある。動画を活用した調製作業改善への取り組みは、客観的、具体的に改善に取り組めるものと考えられ評価できる。</li> </ul>	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まだ、目標達成には至っていないが、単収向上など着実な成果も認められるため、継続した普及指導活動を通して、目標を達成されることを期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も農家の目標達成を目指して支援を継続して行っていく予定です。</li> </ul>
	<p>【下山委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タマネギについて収量の向上など生産面で成果があった。</li> </ul>	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ズッキーニでは生産の安定性確保が課題。他の発表で調整の手間の指摘があったが、そこも含めて取り組む必要がある。</li> <li>タマネギでは販路面でも成果が出ていると報告されたが、ズッキーニとともに、より安定的な販路を開拓・確保する必要があるのではないかと。農家の収益が安定的に確保できることがゴールと認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ズッキーニの調製作業については、効率化につながる気付きを促すために、生産者ごとのやり方を共有する取組を行っている。</li> <li>また、販路拡大については、関係機関が連携して取り組むズッキーニ産地拡大実践プランの中で、JAが主担当で取り組んでいる。</li> <li>タマネギは生産が安定したことで販路が拡大し収益が安定化してきている。ズッキーニについても、生産性向上の支援を行うことで収益向上を図っていく。</li> <li>次年度は規模別の作業体系及び経営指標を作成し、生産及び収益の安定化にむけた支援を行う予定。</li> </ul>
	<p>【石田委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>17経営体に対し、連携機関と情報共有し実情に即した支援が行われていることが良いと思います。就業規則の作成支援等は、今後必要事項に思いますので今後の指導にも期待します。</li> </ul>	<p>【石田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果の部分で、単収達成経営体数が強調されてるのはしかたない事かも知れませんが、経営体により成果目標が違って良いと感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この課題での目標は単収となっているが、同農家の別課題(経営指導課等)の取り組みでは、経営体に応じた成果目標(例えば労務管理、労働環境の整備等)を設定し、達成に向けた支援を行っている。</li> </ul>

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思います。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながるといいますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・未達の原因追及や現状分析は計画作成に重要であり、しっかり検討して進めたい。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。            ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・スマート農業技術に関しては、積極的な情報収集を行いながら、農家の意向を踏まえて支援を行っていきます。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思いますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業) 育成の動きがありますが、農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・農家指導にあたっては農家の意向や状況を考慮し、経営目標と課題解決手法を明確にしつつ、それらを対象と共有しながら、必要に応じて社労士や税理士など専門家を派遣するなどの支援を行っています。            ・兼業農家や農家以外からの技術や経営相談も多くありますが、それらに対しても丁寧に対応することを心がけております。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願ひします。</p>	<p>・市町等関係機関との連携を密接に図りながら、就農希望者等に寄り添った相談対応と個別巡回による技術指導等の支援を行い、今後も新規就農者の確保・育成取組んで参ります。</p>



# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	園芸の産地力向上(キャベツ)	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
園芸の産地力向上(キャベツ) 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・キャベツ産地育成に向けて幅広い支援がなされており、町なども協力して発展がなされている点で、良い成果を上げているように思われる。	【青沼委員】 ・大規模経営体中心に進められている感がするが、小規模な経営体や他農業者などにも効果が行き渡るような方向性が今後示されるともっと発展出来るかと思われます。 (その他) ・ぜひ次の段階では、収穫機の発展を願います。労働力不足に大きな成果が生まれて、さらに産地拡大に取り組めるかと思いました。	・本普及指導計画では、産地の維持発展に向け支援対象を重点化した取組を実施したところであるが、JAにおいて産地全体の振興については「いわて春みどり産地改革計画」を策定し実践しており、この計画の達成に向けた支援に取り組まします。 ・生食用キャベツ生産における自動収穫機について、令和4年度も現地実証に取り組み、傾斜地が多い等地域への導入に向けた課題や改善点を整理する予定です。改善点等については、メーカーへの提案も行いたいと思います。
	【高橋委員】《評価B》 ・自動操舵補助トラクタを各種作業に活用する実装を実施し、研究会を立ち上げるなど、地域のスマート農業気運を向上させた。	【高橋委員】 (その他) ・新品種「秋さやか」の防除確立を含む栽培体系の指導をお願いしたい。	・「秋さやか」の生育特性を含め、秋どり作型に係る岩手県農業研究センターの研究成果等を踏まえた指導を実施していきます。
	【宮路委員】《評価B》 ・スマート農業実証プロジェクトなどの実施を経て、着実に革新技術の導入が進捗している点は評価できる。	【宮路委員】 ・「岩手町スマート農業研究会」など、他作物や畜産経営でのスマート農業技術導入の動きもあるので、先導的な助言やサポートを期待したい。	・岩手町スマート農業研究会の支援を通じて技術導入後の助言やサポートを行うとともに、畜産経営体に対しては個別に技術導入の支援に取り組まします。
	【下山委員】《評価B》 ・耕起から防除までのキャベツの機械化体系を実証でき、研究会ができるなど普及の気運が盛り上がっている。畝立同時局所施肥技術の有効性を確認できた。	【下山委員】 ・収穫機の課題は理解できたが、収穫作業の労力負担軽減について何か方法がないか検討していただきたい。	・アシストスーツが収穫作業の負担軽減につながる可能性があることから、希望する経営体には、岩手町が所有するアシストスーツの貸し出し等により、試行的な利用を進めていく予定です。
	【石田委員】《評価B》 ・生産者減少にも関わらず栽培面積、出荷数量維持できる大規模経営体への支援は、産地としての評価を高めると同時に、後継者育成、経営体の意欲が増すと期待されます。 ・GAP園芸部会、スマート農業研究会の設立等今後の支援が期待されます。	【石田委員】 ・大規模経営体の育成支援のところへ記載されていますが、GAP、スマート農業研究会への支援スケジューリングが共有されている事が大切と思います。	・岩手町スマート農業研究会や、JA新しいわて東部地域県版GAP園芸部会の主体的な活動に対する農業改良普及センターの支援計画について、指導対象や関係機関に情報共有し、連携を深めていきます。

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思いますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・目標数値の未達の原因は、社会情勢や気象条件などによるものが多いが、気象条件等の技術的に対応可能な要因については、技術指導やタイムリーな情報提供を強化します。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。            ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・スマート農業技術の活用などについては、農業普及技術課革新支援担当や岩手県農業研究センターなどと連携の上、新たな知見の情報収集や技術情報の提供を行っていきます。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・各経営体の状況に応じた収益向上に向けた個別支援の取組を継続します。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願ひします。</p>	<p>・新規就農や後継者育成については、市町や農業協同組合と連携し、継続した取組を進めていきます。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	園芸産地の生産構造の強化 ①野菜産地の生産構造の強化	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業



## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
園芸産地の生産構造の強化 ①野菜産地の生産構造の強化 ≪内部評価B≫	<b>【青沼委員】≪評価A≫</b> ・きめ細やかな対応が、随所に見られ各団体とも連携して成果が見られる点が、多いに参考になりました。他地区などでも同様な展開が出来るところがあり、良かったと思います。	<b>【青沼委員】</b> ・今後、病害虫や人手、面積拡大等で安定生産へ向けての課題はありそうです。さらにきめ細やかな対応を関係機関と連携して今後の進め方を今ひとつ掘り下げて進めていけたら良いと思います。	・トップモデル事業を活用してハウスピーマン栽培に取り組んだ生産者に加え、R4からの新規栽培者に対しても個別巡回や面談等を行い、関係機関・団体と課題を共有しながら、きめ細かに対応していきます。
	<b>【高橋委員】≪評価B≫</b> ・ピーマンで単価安はあったものの面積・出荷量の拡大を図った。特に新規生産者への個別指導やベテラン生産者との交流が効果的と感じた。	<b>【高橋委員】</b> ・アスパラ・ねぎ・きゅうりが作付面積を減少させている原因が高齢化や病害であるならば、省力化や効率的な防除方法の確立を注力すべき。  (その他) ・令和4年度からのねぎの普及拡大にも適切な指導をお願いしたい。	・アスパラガスは、高齢化や茎枯病等による収量の低迷等により、新・改植が停滞していることが面積減少の主要因と考えておりますが、主産地である北上地域においてアンケート調査を実施し、より具体的な対策を検討していきます。 ・ねぎは、高齢化に加え、機械の更新時期を迎えた生産者の栽培中止が懸念されることから、機械導入に対するJA独自の助成措置を活用しながら、JAと連携して作付けの維持・拡大を推進するとともに、技術指導を行っていきます。 ・他の品目についても、それぞれの課題に対応・分析し、必要な指導を行っていきます。
	<b>【宮路委員】≪評価B≫</b> ・経営体別の個別面談の導入は、集合研修では十分に対応できない、個別事例ごとの要改善点の抽出や具体的な対応策の提示に有効であると考えられ評価できる。	<b>【宮路委員】</b> ・対象経営や状況も異なり、作目ごとの指導の要点は異なると考えられるが、目標の達成度は、作目により異なる状況にあるので、効果の認められた指導法などあれば、他作目で実施することも期待したい。	・トップモデル事業を活用してハウスピーマンに取り組んだ生産者への毎月の個別巡回や個別面談による実績検討会などは、非常に好評であったことから、R4からのハウスピーマン新規栽培者にも対象を拡大して取組を進めていきます。また、他の品目についても取組の実施を検討していきます。
	<b>【下山委員】≪評価B≫</b> ・ピーマンについて、個別面談や巡回指導の結果、目標を上回る状況となっている。集中的に取り組んだ成果と受け止めました。	<b>【下山委員】</b> ・ピーマン以外の品目の作付けや収量の改善。たばこに変わる品目として導入が多いというアスパラガスの安定生産も課題と思います。  (その他) ・プレゼンの資料が全体的に文字や図表など細かかったと思います。	・各品目の課題を検証しながら、関係機関・団体ともに対応策を検討・実施していきます。 ・アスパラガスは、高齢化や茎枯病等による収量の低迷等により新・改植が停滞しており、主産地である北上地域においてアンケート調査を実施し、より具体的な対策を検討します。また、新規に栽培を始める葉たばこ廃作者の方に対しては、市単事業を活用しながら設備の導入を進めるとともに、指導会や個別指導などにより、圃場の準備段階から指導を行っていきます。
	<b>【石田委員】≪評価B≫</b> ・新規栽培者向け支援チームを編成しての支援活動は、新規者には、とても心強い取り組みであり大切なことと思います。定期的支援により栽培意欲も増すと思います。 ・新規生産者がベテラン生産者からの助言を受ける事は、模範的傾向と思います。	<b>【石田委員】</b> ・改善ではありませんが、水稲だけでなく他作物への取り組みも積極的に行われている地域と感じます。支援チームでの支援活動に期待します。	・当地域は水田地帯であり、野菜や畑作物の栽培に当たっては、排水対策が必要となります。普及センターとしても関係機関・団体と連携し、安定生産に向けた実証や指導に取り組んで参りますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。



### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思いますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・(目標未達の要因には、技術的なものだけでなく、構造的なものも多く、対処が難しいことも多い状況ですが、)アスパラガスではR4に生産者へのアンケート調査を実施し、課題を掘り下げて検討することとしており、他の品目についても必要に応じて対応していきます。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。             ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・全国農業システム化研究会や県の広域振興事業等も活用しながら、スマート農業技術の実証や活用方策の検討に取り組んでおり、引き続き、新たな技術の導入に向けて取り組んでいきますので、御協力をお願いいたします。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・経営改善支援における経営規模の考え方については、対象農家・経営体の現状や将来方向について十分な協議を行った上で共有するよう努めているところです。近年は農業者の意識も変化してきており、効率的な働き方や労務管理等の見直しを求める動きが広がっています。今後ともそれぞれの経営体のニーズに合わせた支援を、必要に応じて外部専門家(中小企業診断士、社会保険労務士他)とも連携しながら進めていきます。            ・近年は半農半Xや多業農家など多様な働き方が見られるほか、会社員等が早期にリタイヤして農業を志す動きも見られます。これらの方々に対しても、農業大学の新規就農者研修(入門コース)などの研修機会の紹介や品目選定への助言等を行っていきます。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしく願いします。</p>	<p>市、JA、普及センター、農林振興センターが連携してワンストップ就農相談窓口を設置し、研修先や資金等の就農相談、経営計画の作成等支援してきております。引き続き、関係機関・団体が密接に連携して新規就農者や後継者の育成に取り組んでいきます。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	肉用牛経営体の生産性向上と規模拡大の推進	青沼純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
肉用牛経営体の生産性向上と規模拡大の推進 《内部評価A》	【青沼委員】《評価A》 ・畜産については、高齢化・労働力等問題が多く生産者が減少する中で、少しでも意欲のある方々に規模拡大と収益の確保に寄与する取り組みは今後につながる活動のように思われる。	【青沼委員】 (その他) ・ICT等の導入は、非常に大きな成果と作業の省力化につながると現場で耳にしました。これからの畜産には切っても切れないものになって行きますので、周知・導入の指導を強く願いたいと思いました。	・月1回作成している市場通信やSNS等を活用し、ICT利用事例等の情報発信を強化していきます。また、ICT技術の特徴を把握し、費用対効果を常に意識した普及活動を進めていきます。
	【高橋委員】《評価B》 ・新規就農者に対する計画策定や初期投資への取り組み支援、その結果に関して評価。	【高橋委員】 (特になし)	
	【宮路委員】《評価A》 ・継続した巡回指導の実施により、支援対象経営体の分娩間隔目標を達成した点は高く評価できる。また、新規就農支援も着実に実施されている点も評価できる。	【宮路委員】 ・規模拡大も進展していることから、ICT技術の活用も含め、引き続き、分娩間隔の維持・短縮に向けた普及指導活動に取り組まれることを期待したい。	・地域の核となる経営体の育成に向け、関係機関と連携して支援対象者の選定を進めるとともに、集中的かつ総合的な指導やICT技術の利用を誘導し、引き続き、分娩間隔の短縮等生産性の向上に努めます。
	【下山委員】《評価A》 ・若手の繁殖経営農家を重点指導農業者として毎月巡回指導を行うなど対処し、分娩間隔の改善と規模拡大について成果をあげた。 ・分娩監視カメラのモデル実証から導入農家が増えた。	【下山委員】 ・安定的に収益を確保できる経営は必ずしも規模拡大だけで実現できないと考えますので、経営としての分析も取り入れていただきたい。	・御指摘の点は、資材高騰等を鑑み、今般特に重要な課題と認識しております。所得率の向上に向けて、指導対象の経営カルテ作成や、普及センター独自様式による簡易経営分析等の手法を活用して現状分析し、課題に対し経営、技術両面からの指導を進めていきます。
	【石田委員】《評価A》 ・サポートチームで支援対象経営体、支援方針を決め17経営体を支援、新規就農8経営体へ総合的支援は良かったと思います。 ・繁殖管理改善に向けた定期巡回指導も分娩間隔改善に繋がった支援と思います。	【石田委員】 ・事故防止の為にICTの情報発信、研修会の実施に期待しています。	・月1回作成の市場通信やSNS等を活用し、ICT利用経営事例等の情報発信を強化していきます。

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思います。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながるといいますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・年度目標の到達可能性を早期に予見するとともに、未達の場合は課題毎に要因と対処方法の考察に努めます。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。             ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・積極的な農業者とともに、最新技術の特徴把握とともに技術導入に係る効果とコストの対比を意識した普及活動に取り組めます。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思いますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・御指摘のとおり、品目毎に規模別の収入、経費、可処分所得を明らかにし、目指すべき経営体像を経営発展段階で選択できることが理想と考えますので、県全体の指導事例からまとめる仕事を進めていきます。            ・普及計画の支援対象以外からの技術や経営相談も多い状況ですが、丁寧に対応することを心がけており、今後も継続したいと考えています。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願ひします。</p>	<p>・引き続き関係機関と様々な形で中広く連携し、今後も産地を支える経営体育成に向け、新規就農者、後継者の確保・育成に取り組んでいきます。</p>



# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援(畜産)	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
消費者・実需者ニーズを踏まえた戦略的な産地形成への支援(畜産) 《内部評価B》	<p>【青沼委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牛伝染性リンパ腫についてなかなか認識されていなかった事が実は酪農にとって損失が大きい事がよくわかり、その対策を農家と共に取り組んでいる事がよくわかりました。</li> </ul>	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな見方がありますが、防御は最大の武器になると思いますので、認知や理解をどのように進めて行くかが課題のように思われました。</li> </ul> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本来であれば、薬やワクチンなどの開発が待たれるところですが、現状で出来ることを進めて行くしかないのが残念です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル農家の対策支援について、関係機関と連携した取組を継続するとともに次年度の新たな支援対象を選定します。</li> <li>まん延防止対策実施モデル農家の成果等について、既存の「技術情報」や「市場通信」を活用して広く発信していきます。</li> <li>発信にあたっては、写真や図を活用してわかりやすい内容となるよう努めます。</li> </ul>
	<p>【高橋委員】《評価A》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牛伝染性リンパ腫の対策として、陽性牛との分離・吸血昆虫侵入防止・アブジャケット・アブトラップに取組み、その複数を実施することで、発生抑制の効果を上げた。</li> </ul>	<p>【高橋委員】 (特になし)</p>	
	<p>【宮路委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝染性リンパ腫の感染予防対策について、関係機関と連携し、生産者が実施可能な複数の対策を提示することで、対策の実行を促した他、予防への啓蒙も進み、対策の実施が確実に展開している点は評価できる。</li> </ul>	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体や畜種毎の対策実施への認識の相違も存在するようなので、引き続き、普及指導活動を通して啓蒙を行い、さらなる対策実施の展開を期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル農家の対策支援について、関係機関と連携した取組を継続するとともに次年度の新たな支援対象を選定します。</li> <li>畜種による認識の相違があるなかで、より影響が大きい肉用牛農家に対し速やかに啓蒙できるよう、まん延防止対策実施モデル農家の成果等について、既存の「技術情報」や「市場通信」を活用して発信していきます。</li> </ul>
	<p>【下山委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農家を選定して牛伝染性リンパ腫の予防対策を実施し、発症牛の発生抑制を図っている。農家も対策実施に協力的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関心のない農家の関心を喚起し、予防対策を実施してもらうこと。地道に取り組むしかないと思いますが継続していただきたい。</li> </ul> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表時間をかなりオーバーした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル農家の対策支援について、関係機関と連携した取組を継続するとともに次年度の新たな支援対象を選定します。</li> <li>まん延防止対策実施モデル農家の成果等について、既存の「技術情報」や「市場通信」を活用して広く発信していきます。</li> <li>発信にあたっては、写真や図を活用してわかりやすい内容となるよう努めます。</li> </ul>
	<p>【石田委員】《評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性から牛伝染性リンパ腫への取り組みは、良いと思います。今後の周知に期待します。</li> </ul>	<p>【石田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産業は大小に関わらず伝染性の物は、廃業と背中合わせのように思います。難しい支援になると思いますが、関係機関との連携も密にお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル農家の対策支援について、関係機関と連携した取組を継続するとともに次年度の新たな支援対象を選定します。</li> </ul>

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思いますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・目標達成のため必要となる、下位の目標項目を設定する必要があったと考えます。その際、普及センターの働きかけにより、対象の変化が期待できる(反映できる)項目であることが、対外的にもわかりやすいと考えます。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。            ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・対象に応じた技術の提案をしていきたいと考えます。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・農家の経営能力や労力構成に応じ適正な経営規模があるのはご指摘のとおりと考えます。加えて、経営目標達成のための目指す方向(規模拡大、品質向上、商品差別化等)によっても適正規模は異なると考えられ、対象者により支援の内容が異なる可能性があると考えます。            ・地域農業の労働力不足を補う形での農作業パート・アルバイトの募集説明会や農作業体験会の開催について関係機関と連携して支援しており、来年度も継続する予定です。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願ひします。</p>	<p>・新規就農者及び後継者育成に係る支援は重要な課題であり、地域普及課題に位置づけ取り組んでいるところです。支援においては関係機関の連携が不可欠であり、地域農業振興協議会と連携した活動を展開しています。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	野菜産地の維持拡大	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
野菜産地の維持拡大 《内部評価C》	【青沼委員】《評価C》 ・重点農家を決めて、集中的に指導体制をとって生産拡大や問題点の対策に対応して収益向上や産地拡大の基礎を作り上げているところが新しい視点でとらえていると思う。	【青沼委員】 ・もっと問題点を深く探りさげ根本的な解決等を模索する必要もありそうな気がします。逆に他産地と積極的に交流して垣根を越えての育成方法もある気がします。	・新型コロナの影響により、他産地との交流などが少なかったため、次年度は、御意見を参考に、JA等と連携した先進地視察研修や農業者同士の交流などを計画しています。
	【高橋委員】《評価C》 (特になし)	【高橋委員】 ・R3年度でピーマン・ミニトマトの面積は増加しているが、反収が低下していることについては、もっと原因を追究し改善に向けた指導を願う。正直、あまり成果が感じられない。	・個別巡回指導や営農相談などで、生産者ごとに問題点を把握するとともに、短期的課題と長期的課題に分け、JA等と連携した取組を推進しているところです。さらに、次年度はJA等と連携した先進地視察研修などを計画しています。成果が感じられるような活動となるよう、活動内容の改善や充実へ努めます。
	【宮路委員】《評価C》 目標未達の重点指導農家についても課題、必要な対策は整理されており、必要な対応が明確にされている点は評価できる。	【宮路委員】 ・C評価としたが、既に目標を達成して卒業した農家がいる他、目標未達農家の課題等は、整理されているので、継続した普及指導活動を通して目標が達成されることを期待したい。	・目標達成に向け、これまでの取組に加え、次年度はJA等と連携した先進地視察研修なども計画しているところです。より良い普及指導活動となるよう、活動内容の充実・強化に努めます。
	【下山委員】《評価C》 ・重点指導農家を選定して集中的に指導することで反収など向上が見られる。	【下山委員】 ・対象農家の組織化なども検討してはどうか。他の発表で若者組織の報告があったが、農家同士で情報共有を図る自主的な活動なども促した方がよいのではないか。	・農家同士の情報共有は、非常に重要と考えています。先輩農家と新規栽培者、又は新規農家同士の交流など、農家同士の情報共有を促すような取組を検討します。
	【石田委員】《評価C》 ・JA生産部会で作成している3品目を主力品目に位置付け、重点指導農家と面談し分析、課題抽出、改善策を共有し個別支援できたのは良かったと思います。	【石田委員】 ・新たな課題への取組について、普及支援活動で出来る事、できない事を分け、取組みスケジュールを示していく事が必要だと思います。	・新たな課題について、取組みスケジュールを示しながら取り組むよう努めます。 ・普及指導員が行うもの、民間等が行うもの、民間等と連携して行うものを整理しつつ、多様な関係機関との連携による総合力の発揮により農業者に対する支援活動の充実強化を図ります。



### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</li> </ul>	<p>【青沼委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながるかと思えますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</li> </ul>
<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。</li> <li>・畜産における病気への対処の実践。</li> </ul>	<p>【高橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向け、支援対象者からの聞き取りや、所内での検討、JA・市町等との打合せを密に行うことにより、問題点を明確にするとともに、短期的な課題と中長期的な課題に分類し、普及指導員が行うもの、JAや市町等が行うもの、JAや市町村等と連携して行うものを整理しつつ、解決に向けた活動の充実強化に努めます。</li> </ul>
<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。</li> <li>・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</li> </ul>	<p>【宮路委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の要望等を踏まえながら、先導的な取り組みとなるよう努めます。</li> </ul>
<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</li> </ul>	<p>【下山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。</li> <li>・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の要望や、市町村が定める「農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想」などを踏まえ、その地域に適した普及指導活動となるよう努めます。</li> </ul>
<p>【石田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</li> </ul>	<p>【石田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もJAや市町等と連携し、新規就農者支援や後継者支援などの充実強化に努めます。</li> </ul>



# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	再生農地地域の経営安定化支援	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
再生農地地域の経営安定化支援 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・災害からの復興に取り組んで地域の営農継続と経営の安定を目指して積極的に取り組んでいる様子がよくわかりました。	【青沼委員】 ・現状では難しいのですが、他の作物へ転換等も模索する時期ではないでしょうか。もっと収益を上げられる様に新たな品目が必要な気がしました。	・既存の栽培作物の収量の向上と安定化を図ることが優先課題と認識しており、収量向上の取組を実施していきます。今後はより収益性の高い品目についても検討を進めていきたいと存じます。
	【高橋委員】《評価B》 ・大豆の担い手「ゆたか農産やまだ」設立および集荷量向上支援。 ・担い手5戸の営農再開への支援。	【高橋委員】 ・水稻収量をR1水準の420kg/10aを目標に指導願いたい。	・収量向上のため、「銀河のしずく」の施肥技術改善等による増収に向けて栽培指導に取組めます。
	【宮路委員】《評価B》 ・再生農地での営農再開支援に関する課題であり、地道な取り組みが必要であると考えられるが、適期播種に向けた大豆の不耕起栽培の導入など、生産者の実態に即した対策が実施されている点は評価できる。	【宮路委員】 ・再生農地での生産には、解決すべき課題も多いと考えられるが、先行営農再開地域での知見等も活用しながら、改善に取り組まれることを期待したい。	・先行している営農再開地域で取組を参考として、引続き再生農地地域の経営安定化支援に取組めます。
	【下山委員】《評価B》 ・被災した農地を再生し、耕作者組織で担う形を作った。	【下山委員】 ・導入品目(大豆、そば)の生産性向上と収量の安定確保。再生農地の土づくりをさらに検証していただきたい。 (その他) ・プレゼン資料の文字が全体的に小さい印象でした。	・そば収量向上のため、圃場明きよの施工密度増加による排水対策の強化や耕種(播種量など)の見直しによる出芽数の確保など栽培指導に取組めます。 ・大豆収量の安定確保のため、水田輪作体系の実施や、サブソイラなどの実施による排水対策の強化や病害虫防除の徹底など、より一層の栽培指導に取組めます。
	【石田委員】《評価B》 ・再生農地地域での支援は、営農再開に意欲的な経営体が、継続的に営農に取り組む支援が最も評価されることと思えます。	【石田委員】 ・圃場は再生されても、作目再生までには時間を要すると思います。適正表現ではありませんが、再生圃場への継続支援が評価に値すると思えます。	・引続き再生農地地域の経営安定化支援に取組めます。

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思いますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・具体的な対応策について検討を徹底し、対象者と方向性を共有し取組むこととしている。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・革新支援担当と普及現場との連携のもと、プロジェクトが実施されている点は評価できる。             ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・課題解決に向けた有効な対応策の共有など、地域間の情報の橋渡しを期待したい。            ・また、スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・畜産農家への定期巡回や研修会などにおいてスマート農業技術の活用を促進していく。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・経営目標を支援対象と共有し、目標達成に向けて農家個々の状況に合わせた支援に取組むこととしている。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしく願います。</p>	<p>・ニューファーマーサポート会議等を通じて関係機関の情報を共有し、新規就農者の確保と経営安定に向けた支援に取組むこととしている。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	地域農業を担う経営体の育成	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
地域農業を担う経営体の育成 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・リーディング経営体を中心として、地域独自の視点で経営環境改善の取り組みをきめ細やかになされている点が、非常に注目できる。	【青沼委員】 ・高収益作物や新たな園芸作物などの選定など課題は多いですが、地域の畜産やキノコ等と組み合わせることで拡大の糸口があると思います。 (その他) ・六次化などに組み合わせることで収益増加につながりそうですが、なかなか難しいですね。	・安定経営の事例を元に有望な品目を組み合わせつつ、経営規模の拡大へ誘導する。 ・六次化志向を持つ重点指導農業者には、情報提供や経営計画に組み込むなどの支援を実施する。
	【高橋委員】《評価C》 ・地域のリーディング経営体を育成するという目的は評価できる。	【畠山委員】 ・目標販売額を達成した経営体率が44%では、当課題を達成できたとは言えない。米価の下落や夏の猛暑の状況を販売額減少の理由としているが、近年の状況を顧みると十分予測できた内容であり、このことを踏まえた指導をしてほしい。	・達成率の向上に向けて、各対象者毎に計画時の議論を深める。具体的には・内・外部環境の変化を捉え、改善課題、目標値及を設定した上で、支援に取り組む。 ・未達成の対象には、相談カルテを通じて要因分析を行い問題点を確認し、単年度でできる改善を明確にする。
	【宮路委員】《評価B》 ・重点支援対象農家への積極的な個別指導の実施の他、目標未達の要因分析、必要な対策が明確にされている点は評価できる。	【宮路委員】 ・要因分析とそこから導き出された必要な対応を、普及指導活動を通して実現し、目標が達成されることを期待したい。	・達成率の向上に向けて、各対象者毎に計画時の議論を深める。具体的には・内・外部環境の変化を捉え、改善課題、目標値及を設定した上で、支援に取り組む。(再掲) ・未達成の対象には、相談カルテを通じて要因分析を行い問題点を確認し、単年度でできる改善を明確にする。(再掲)
	【下山委員】《評価B》 ・重点指導農業者を選定して集中的に支援し、対象の半数の販売額が増加。	【下山委員】 ・規模拡大の推進を強調されていたが、農家個々の安定的な収益確保に何が最適かという視点を持たないと過剰投資や労力不足を招く恐れはないか。農家ごとに課題を把握していると伺いましたが、労働者の構成や投資可能額なども踏まえた最適な経営展開があると考えます。	・対象者の意向を踏まえながら効率化と規模の拡大との両面による支援を進める。 (県の統一様式である)相談カルテにて労働力の構成や直近の資本の動向なども把握した上で検討する。
	【石田委員】《評価B》 ・産地としての品目をきちんと捉え、組織、経営体の中から経営拡大に意欲的などころの課題解決支援を行い、大規模経営体育成の取り組みは良いと思います。 ・個別課題解決に向けた支援チームの連携、相談カルテに基づいた個別指導は、経営体にとっては心強い支援と思います。	【石田委員】 ・販売数の増加しない要因は、支援活動による要因ではないと思うので、成果目標の捉え方の検討が必要と感じます。	・最終年は特にも対象が目標とした販売額を達成させることを重視した支援活動をする。 ・未達成の対象には、相談カルテを通じて要因分析を行い問題点を確認し、単年度でできる改善を明確にする。(再掲)



### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しい事や、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思います。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思っていますので、今後はそのような想定も含めて進めて見たいかどうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・未達成の対象には、更に経営の課題の分析を行い、改善を進めてゆく。(再掲)</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。            ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・技術水準及び経営能力に長けている重点指導農業者を中心に、積極的にスマート農業技術の導入を促進する。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思いますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・規模拡大を志向する農業者や兼業しながら、地域農業を担う者など、多様なニーズに対応する。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願ひします。</p>	<p>・関係機関職員との連携を引き続き円滑に行い、担い手育成を進める。</p>

# 令和3年度 地域課題普及指導活動外部評価結果報告書

## 1 外部評価の実施状況

実施日時	対象課題	外部評価委員		
		氏名	所属及び職名	区分
令和4年2月25日 10時00分～16時30分	野菜生産組織の育成及び生産性向上	青沼 純一	岩手県農業農村指導士協会 会長	先進的農業者
		高橋 一樹	全国農業協同組合連合会岩手県本部 営農支援部長	農業関係団体者
実施場所		宮路 広武	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ長補佐	学識経験者
ウェブ会議		下山 隆雄	公益社団法人全国農業共済協会 農業共済新聞編集部編集長	マスコミ
		石田 善孝	株式会社みちのくクボタ 執行役員営業副本部長 兼担い手推進部長	民間企業

## 2 課題別評価の結果と改善方策

対象課題	評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
野菜生産組織の育成及び生産性向上 《内部評価B》	【青沼委員】《評価B》 ・若い生産者を中心にしての活動の中心にする取り組みに、今までにない方向性が感じられました。どうしてもベテラン中心に進めがちな生産組織に一石を投じているかと思えます。	【青沼委員】 ・若者中心となると、どうしても目新しいこと、比較的楽なことへ進みがち思われます。既存の生産組織との融和を図りながらうまく進めて行けば、もっと大きな成果が出るかと思われました。	・きゅうり若者会は、きゅうり専門部の下部組織という位置づけです。今後、親組織の次期実践プラン策定を経て、若者会の意見等を反映させていくこととしております。
	【畠山委員】《評価B》 ・若手生産者を中心に「若手会」の設立、生産性向上対策や労働力確保対策の取組みは評価できる。	【高橋委員】 ・環境制御機器の導入に関しては、効果を十分検討のうえ対応していただきたい。	・環境制御機器については、現地での実証を行い、実証で得られた効果について革新支援担当等と検討の上、導入を進めます。
	【宮路委員】《評価B》 ・「若者会」への様々な積極的活動支援は、今期の目標達成だけではなく、将来的な経営発展に向けても期待されるものであり、評価できる。	【宮路委員】 ・栽培法の改善や環境制御技術の導入に向け、環境モニタリングデータの具体的活用方法について、継続した普及指導活動を期待したい。	・引き続き、環境制御機器の実証を行うとともに、環境モニタリング指導を通じて、技術導入に向けた生産者の資質向上に取り組んでいきます。
	【下山委員】《評価B》 ・キュウリ産地の底上げを図るために若手農業者組織を立ち上げ、生産性向上など成果をあげた。目標には未達とのことだが、新規参入者の確保など今後に期待が持てる。組織として活動が活発になればさらに発展の可能性はある。	【下山委員】 ・環境制御技術の実証と普及。ハウス栽培では、将来的には必須の技術と思えます。	同上
	【石田委員】《評価B》 ・産地として維持、底上げの為に後継者、新規を含め育成に若者会の設立、サポートセンターの支援は、心強い支援活動だと思います。 ・栽培管理指導、ヘルパー等労働力支援も魅力的だと思います。	【石田委員】 ・支援体制がほぼ確立され、後継者、新規就農者への支援活動が行われているが、支援の在り方も変化していく事を考慮し取り組んで頂ければと思います。	・後継者、新規就農者に対して必要な支援活動については、サポートセンターにおける重点支援対象の設定時に検討した上で取り組んでいきます。

### 3 総括的評価の結果と改善方策

評価された事項	改善を求められた事項、提言事項	左記に対して次年度計画への反映内容
<p><b>【青沼委員】</b>            ・地域の課題について積極的に取り組んで普及活動している内容がよくわかりました。特に人も時間も限られている中で、積極的な巡回指導が多く行われていることを改めて知りました。農家にとっては心強いものです。これからもこの精神で普及活動をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>【青沼委員】</b>            ・普及センター管内のみでなかなか対応が難しいことや、広域での取り組みが成果として見られる場合など多々あるかと思えます。その際には隣接するところと共同のテーマで対応するなど必要ではないでしょうか。これからはそのようなことも想定されます。産地の育成は最終的には量で価格が決まって収益につながると思いますので、今後はそのような想定も含めて進めて見てはどうでしょうか。</p>	<p>・重要かつ広域的課題は、「県点プロジェクト」として農業革新支援専門員が中心となり、普及センターと連携して当該プロジェクトに基づく活動を推進していきます。なお、産地育成に関しては、御指摘のとおり、面的な広がりが必要であることから、そのことにも留意した課題設定及び取組を行っていきます。(農業普及技術課)</p>
<p><b>【高橋委員】</b>            ・地域の担い手・中核生産者の育成、新規生産者への支援の取組み。            ・畜産における病気への対処の実践。</p>	<p><b>【高橋委員】</b>            ・目標数値未達の場合の原因の追究と対処方法をもっと明確に考察し、解決に向けた方向性を示してほしい。</p>	<p>・普及指導計画は、目標達成に向け、毎月各課ごとに、四半期ごとに3課全体での検討会を行いながら進行管理を行っています。次年度は、令和元年から4年の4カ年計画の最終年度となりますが、目標達成に向け努力します。また、農業を取り巻く環境を適切につかみながら、県民計画に基づき次期4年間の計画を策定します。</p>
<p><b>【宮路委員】</b>            ・全体的に生産者の実態、課題に即した普及指導活動が実施されている点は評価できる。             ・普及指導活動に直接的にかかわることではないですが、全体的にわかりやすいプレゼンでした。</p>	<p><b>【宮路委員】</b>            ・スマート農業技術の活用など新たな知見を求められる場面も想定されるので、先導的に取り組まれることを期待したい。</p>	<p>・地域経営推進費などを活用しながら、普及拡大に努めます。</p>
<p><b>【下山委員】</b>            ・経営規模拡大や経営改善に、農家個々との面談や重点農家を設定して深く関わる取り組み姿勢は評価できます。従来に比べ指導機関側の人材も不足しているかと思えますが継続していただきたい。</p>	<p><b>【下山委員】</b>            ・規模拡大や担い手農家の育成は、行政上の重要課題であると理解していますが、個人的に農家個々の経営能力や労力構成などから適正な経営規模があると考えています。            ・地域によっては兼業農家(土日や空き時間に農業)育成の動きがあります。農業への関わり方に合わせた経営や品目選定などのサポート的な役割を指導機関には期待したい。改善点ではありませんが、記述しておきます。</p>	<p>・各農家の経営ビジョンを尊重しながら、環境や条件に応じた適切な規模の営農を指導します。            ・農家人口が急激に減少する中、兼業農家の活躍は重要です。農業者が気軽に相談できる公的機関としての役割を果たしていきます。</p>
<p><b>【石田委員】</b>            ・各普及センターの取り組みは、地域に応じた細かい指導、支援がされていて心強く感じました。コミュニケーションが図られ、支援を受けた経営体は今後も意欲ある取り組みをして行く事と思います。</p>	<p><b>【石田委員】</b>            ・関係機関との連携で、継続的普及支援活動が必要に感じます。特に新規就農者支援、後継者育成支援は大切に思いますのでよろしくお願いします。</p>	<p>・次代の担い手育成は、農政の大きな課題です。新規就農者の確保と、早期経営安定による定着率100%を目指した支援を継続します。</p>

## 「普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領」

### 第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、地域課題等の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

### 第2 普及指導計画の策定

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、実施方針に則し、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す方向や目標を明らかにして4カ年を計画期間とする普及指導計画を策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて見直すものとする。

- 2 普及指導計画は、県重点プロジェクトと地域課題普及指導計画に分類し、基本方針及び課題別計画の構成とする。

(1) 県重点プロジェクト（様式第1号）は農業普及技術課、地域課題普及指導計画（様式第2号）は農業改良普及センターが作成する。

(2) 指導方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。

(3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。

- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画の策定にあたって、次の内容に留意する。

(1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、農業普及員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。

なお、課題の選定にあたっては、実施方針及びいわて県民計画と整合性を図るものとする。

- (2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議し共有する。
  - (3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等の関係機関・団体、民間、県機関等と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。
  - (4) 重要かつ広域的な課題については、県重点プロジェクトとして位置づける。また、県重点プロジェクトが広域的な課題解決に向け効果的な活動となるよう、農業改良普及センターは地域課題普及指導計画に県重点プロジェクトを位置付けるよう努める。
  - (5) 課題別計画（様式第1-2号、様式第2-2号）以外の必要な活動については、一般課題に位置づけて、活動計画を策定する。
- 4 農業普及技術課は、当該年度の県重点プロジェクトを4月上旬までに農業改良普及センター、県庁農政担当課及び農業研究センターへ通知する。

なお、県重点プロジェクト（課題別計画：様式第1-2号）を変更しようとする場合は、事前に普及センター等から意見を聞くものとする。
  - 5 農業改良普及センターは、当該年度の地域課題普及指導計画を4月中旬までに農業普及技術課へ報告する。なお、地域課題普及指導計画（課題別計画：様式第2-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業普及技術課の助言を受ける。

### 第3 普及指導活動の実施等

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により普及指導計画の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動を計画的かつ効果的に実施するよう努める。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。
- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

### 第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させるため、毎年度、普及指導活動の内部評価を実施する。



- (1) 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画等に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、課題別に内部評価を実施する。
  - (2) 課題別評価は、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果の視点をもって、総合的に評価し、当該年度末までに取りまとめる。  
また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第1-4号、様式第2-4号）により、計画期間における実績を総括して評価し、当該年度末までに取りまとめる。
  - (3) 農業改良普及センターは、内部評価結果として課題別単年度実績（様式第2-3号）を、当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第2-4号）を当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な評価を得、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、毎年度、第三者による外部評価を受けるものとする。
- (1) 農業普及技術課は、外部評価を統轄し、外部評価委員会（以下「委員会」という。）の設置と、必要な予算措置を講ずる。
  - (2) 外部評価委員は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や外部有識者（農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業等）から毎年度、一部に偏りが出ないよう5名以内を選任する。ただし、再任を妨げない。
  - (3) 委員会は、内部評価終了後の概ね2月中下旬に開催する。
  - (4) 委員会では、毎年度数課題を選定し、計画、活動方法及び成果、活動体制を評価する。
  - (5) 農業普及技術課は、委員会からの意見・提言等を当該年度末までに外部評価結果報告書（様式第1-5号、様式第2-5号）に取りまとめる。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部評価の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び委員会の意見等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。
- 4 農業普及技術課は、外部評価結果や成果等について取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部へ公表する。

## 第5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和3年1月27日から施行する。